

周辺環境（都市計画見直しの検討等）について（案）

○神宮外苑地区のあり方

①観客動線・溜まり空間について

国立競技場の改築は、8万人収容のスタジアムとなる見込みであり、2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップの決勝会場として使用される。

また、周辺には、秩父宮ラグビー場、神宮球場、東京体育館などの大規模大会が開催されるスポーツ施設が揃っている。

周辺駅からのバリアフリーに対応した安全な観客動線・溜まり空間を確保するためには、周辺環境を含めた、まちづくりを行う必要があることから、神宮外苑地区全体を都市計画見直しの範囲と考える。

②都市計画見直しについて

国立競技場の改築にあたっては、敷地の一部を公開空地として一般に開放することなど、公共性の高い施設を設けることを条件に用途、高さ、容積率等の既存都市計画の規制に対応することとしている。

神宮外苑地区全体としての環境の向上のため、将来的な他のスポーツ施設等の建て替え等を見据えた、まちづくりを行う必要があることから、神宮外苑地区全体を都市計画見直しの範囲と考える。